

全幅の信頼を寄せる職人達と共に 塗装業界で存在感を放つ

磨き抜かれた高い技術力で顧客から厚い信頼を寄せられる『TS-style』。腕利きの職人たちを束ねる田中社長は、塗装業のみならず不動産業も経験するなど高い経営センスを持つ人物だ。本日は、タレントの布川敏和氏が同社を訪問し、社長に様々なお話を伺った。

布川 早速ですが、田中社長のこれまでの歩みから伺います。

田中 東京都出身で、学業修了後に塗装業に就きました。実家が塗装業を営んでいたの、父のもとで修業させてもらっていましたね。経験を積んで父のもとから独立しましたが、不動産業に転身した時期もありました。塗装業は建築業界とも密接な関係にありますし、塗装業の経験が不動産業でも活かされましたね。その後、再び塗装業へ戻りました。塗装業を離れている間に、塗装の材料がまったく変わっていて戸惑っていましたね。もちろん以前からの材料もあるのですが、新しい塗料がどんどん出てきているので昔のものは使われないんですよ。材料が変われば仕事のプロセスもずいぶん変わってしまいます。そこで、勉強させてもらう意味で数年間修業を積み、独立しました。

布川 満を持して独立されたわけだ。現在は、どのような現場が多いのですか。

田中 一般の戸建て住宅の塗装がメインです。大きな現場だと、消防署の新築工事に携わったこともありますね。ありがたいことに、腕利きの職人に恵まれており、これまで人とのつながりを大切にしてきたことや、不動産業での経験や人脈が今に全て活かされているように感じています。



布川 敏和

信頼する職人のためなら、時には自ら犠牲になることも厭わないという田中社長。これからも従業員の皆さんと共に、塗装業界をぜひ盛り上げていただきたいですね！

布川 従業員の皆さんは長く働かれている方が多いのでしょうか。

田中 10代後半や20代前半の若手もいれば、30年近いキャリアを持つ従業員もいます。私が独立する前から一緒に働いていた従業員もいるのですよ。高い技術力を持つ職人なので、今では私の右腕のような存在です。他の従業員たちも、私が現場についていなくても、任せることができる頼もしい存在ですね。

布川 社長の従業員教育が行き届いているのですね。

田中 技術面に関しては経験と共に磨かれていきますので、別段厳しく指導することはありませんが、礼儀礼節に関しては徹底するように伝えています。その部分がきちんとしなれば建築業界では生き残ることができないと思うので、言葉遣いなどは特に気を付けるように指導していますね。

布川 なるほど。では最後に、今後の展望をお聞かせ下さい。

田中 今日を迎えるまで、とにかく前を見てがむしゃらに努力を重ねてきたつもりです。これからも、立ち止まらず走り続けたいと思っています。東京オリンピックに向けて建築業界も動いていくと思いますので、しっかり準備していきたいですね。また、3～5年後には今所属しているメンバー一人ひとりが、会社内での独立のような形でそれぞれの現場を持ち、他の職人を率いることができるまでに成長してもらいたいと思っています。最終的な責任は私が持つので、ぜひ応援したいですね。

(2017年3月取材)



代表取締役

田中 猛夫

外装・内装工事一式

株式会社 TS-style

東京都板橋区大山西町 22-7 メゾンヒロ 102

